

学校名：横浜市立滝頭小学校

担当： 4 学年

氏名： 藤井 園子

### 1. 今回の研修における目的やねらい

教員として、日々子どもと接し指導する中で感じる課題は「実際に体験しなくても指導することはできる。しかし実際に体験したことを伝えることで子どもたちの興味関心をより引き出しながら指導することができるのではないか。」ということだった。

児童は4年生から社会科の学習の中で、地図帳を使って日本や世界の地図を見る機会が増え、世界の他の国々に興味を持ち始めた。その国の様子や文化、習慣、世界遺産に興味をもちながら学習に意欲的に取り組む児童が増えてきている。その中で、私自身が前から興味があった「開発途上国」について、関連づけた授業展開ができないかと考えた。研修国カンボジアは数十年前まで内戦があった国ということで、戦後の日本に共通するものがあるのでは、そしてその後どのように人々が国を作り上げていこうとしているのか現地の人々、子どもたち、現地で働く日本人に私が出て直接話を聞いたり、ふれあったりしたことを児童と共有し、開発途上国と言われる国の問題点と良い点を考えながら日本以外の国に興味をもっていけるようなきっかけ作りがしたいと考えた。

今回の研修に参加して私自身が「知ったこと」をクラスの子どもたちに「知ってもらおう」ための授業に取り組み、成長していく中での知識の一つとして欲しいと思う。

### 2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

非常に有意義な時間を過ごし様々な体験をすることができた。特にいろいろな人と会って話をしたり、聞いたりすることで、「開発途上国と言われる国の問題点と良い点」を垣間見られることができた。また、都市部と農村部で生活する機会があったことでカンボジアという国が大きく変化している課程を見ることができた。一応帰国後の授業展開については、事前にイメージしていったがそれ以上に伝えたいことや知って欲しいことの素材がたくさんあり、目的とは少し違った方向での授業展開になりそうだ。

現地での研修を行うまでは予想していなかった良い収穫は「コミュニケーションをとって人々と関わることのおもしろさ、楽しさ」だった。現地の人々、子どもたち、現地で働く日本人、そして一緒に研修に参加していた先生方。どのような人であっても一緒に笑いあえることのすばらしさを感じることができた。

### 3. カンボジア国から学んだこと

特に先入観を持たずにカンボジアに入った。行った場所、会った人、その場その場でカンボジアという国の印象が変わった。町では、「のんびりしていて焦らず、気さくに生活することって笑顔が増えて良いな。」と感じた。しかし、様々な国の援助で高いビルや建物が建っていることに対して「他の国の援助って、どこまでして良いものなのか。カンボジアの人々の身にはなっているのか。」と疑問を感じた。村では、「みんな優しい。笑顔がすてき。お母さんが子どもの世話をしながら仕事ができるって良いことだ。」と感じた。しかし、生活環境や教育環境、子育てをする環境や知識がまだまだ足りていないのだ、ということも知った。

全体を通してカンボジアから学んだことは、カンボジアにはたくさんの可能性があり、その可能性を良い方向にもっていくのはこれから成長していく子どもたちなのだということだ。それは日本も同じであり、どの国であっても問題点、良い点があり今後の国を作っていくのは子どもたちだということを知ることができた。だからこそ、その国の歴史や文化にあった支援や援助を考えていく必要があるという

ことを感じた。

#### 4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

今回の研修で一番感じた「人とコミュニケーションとることのおもしろさ、楽しさ」を中心にした教育活動を行いたいと思っている。また、コミュニケーションを取り相手の気持ちを考えることから、その人や国にあった援助について考える授業展開を行いたいと思っている。今回の研修のテーマが「復興と人材育成」ということで、今のカンボジアにとって何が必要なのかを児童と一緒に考えていきたいと思う。

#### 5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

他校種の先生方と一緒に考えを共有できたのがとても良かった。自分と違った考え方、様々な経験をしていられる先生方のお話は普段の教育活動に当てはめて考えても大変勉強になった。「振り返りの時間」があらかじめ設定されていたが、時間やその日の研修内容に考慮しながら臨機応変に対応してもらえたのが良かった。振り返りの時間では、先生方が自分の気づかなかった視点での意見を述べていて、すぐ次の日から見る視点の視野を広げようと努力することができた。

現地でたくさんの人に会えたのも良かった。実際の活動内容を見ながら具体的なお話を聞けるのは、わかりやすかった。あらかじめ文章や資料も配付されていて軽く目を通してはいたが、やはり実際に見たり体験したりすることの方が自分にとっては良かった。

#### 6. その他、研修全般を通じての感想・意見など

偶然参加することになった今回の研修。カンボジアに行くことができて本当に良かった。現地に行くまでの今回の研修の私のキーワードは「開発途上国の様子って？」ということだった。私にも何かできることはないのかとずっと考えていた。じゃあ、まずは「知りたい」という興味本位から始まった。しかし、現地で出会った人々、一緒に研修に行った先生方との話、偶然の出会いを通してキーワードが変わっていった。「生きるってなんだろう？人の命ってなんだろう？」ということに変わっていった。どのような人であってもの一人一人が主人公になれるように、自分の思いを大切にすることが重要だと研修が進むにつれて感じるようになった。そして、今の自分に必要なことややるべきことを考える良い機会となった。

#### 7. 今後の本研修参加者へのアドバイス

「深く考え過ぎない。しかし、最後まで気を抜かないこと」が大切だと思う。原因は不明だが、最終日に今まで経験したことのない腹痛が起こった。参加者のみなさんがとても親切にしてくださり、何とか帰国することができた。本当に辛い時は人に頼ることが大切。(私は頼りすぎだったと思いますが…)研修に参加している人はみなさん良い人ばかりなので、互いに信頼する気持ちをもって研修に参加すると良いと思う。本当に感謝をしています。

#### 8. 各訪問先等の所感

日時	テーマ	所感
7月26日(火)	日本からカンボジアまでの移動中および現地到着	飛行機から見た景色では、日本と変わらない様子だった。空から見ていると田園風景が続いていてたくさん自然があった。しかし実際に町に着くと日本の都市よりも道路が整備されていなかった。
7月27日(水)	JICA カンボジア事務所表敬	きれいなオフィス。初めて小川さんと対面。海外で

		働いている女性ってかっこいいと思った。
7月27日(水)	市内見学(現地マーケット視察)	カンボジアの人々が食べているものや日本では見たことのないフルーツや食材があった。ドリアンがくさかった。
7月27日(水)	JICA 無償資金援助で建設された施設	船上からの視察で、陸地から見る景色とはだいぶ違って橋や港の全体像が見られて良かった。橋はたくさん車やバイクが利用していて、カンボジアのその土地の人々の生活には必要なものだったので感じた。
7月27日(水)	本日の振り返り	他の先生方の意見や感じたこと、またその意見に対する JICA 職員の人の具体的なところをつく質問。自分では考えたり、見ていなかった視点を提示してもらえて良い刺激となった。逆に自分はこれで良いのか、自分の考えはこうだと、もやもやする気持ちも芽生えた。
7月28日(木)	カンボジア日本人材開発センター	日本語がとても上手だった。日本の大学生と変わらない一面を多くもっていた。
7月28日(木)	本日の振り返り	カンボジアに住んでいる人と話をすることで、少しずつカンボジアの様子がつかめようになってきた。やっぱり教師という職業についているからこそ、人と話をしたり、コミュニケーションを取ったりするのが楽しかった。他の先生方も本当に楽しそうに活動に取り組まれているなど思った。
7月29日(金)	国際保健協力市民の会 (SHARE)	ボランティアで村の人が集まって、自分の村の子どもたちの発育状況を把握して処置を考えるという取り組みが行える活動の基盤作りをしている SHARE の方達がすばらしいと思った。その反面、村の人たちの力でその活動を継続していけるようになったと判断することは難しくないのか、本当に SHARE が撤退した時にその活動は続いていくのか、心配になった。
7月29日(金)	本日の振り返り	村に着くまでの道のりがプノンペン中心部とだいぶ違って舗装されていなかった。住居は木でできていて家の周りは水はけが悪かった。水はけが悪いと衛生環境が良くないのではと思った。後日現地に長く住む日本人の人にそのことについて聞くと、家の周りの水たまりの水で家畜の飲み水にしたり、農作物を育てたりと家々によって使い方の用途が様々にある、という話を聞いた。なんでもかんでもきれいにすれば良いということでもないのかな、と感じた。
7月30日(土)	アンコールワット	現地の人、たくさんの観光客がいた。クメール王朝の富と権力を体感することができた。
7月30日(土)	クメール伝統織物研究所 (IKTT)	森本さんが「やりたいと思うことをやる。深く考え過ぎない。」と言っていた。私もそうだと思う。こう

		<p>いった自分の生まれ育った環境と全く違う土地で一から何かを始めるといことは、強い信念も必要だとは思いますが自分や周りを追い込みすぎない楽天的な明るさやみんなを包み込むような優しさが必要なのだと思った。</p>
7月30日(土)	本日の振り返り	<p>夕食前の自由時間が非常に有意義だった。開放的な場所だからこそ心が開けたのだと思う。人の心はその人のいる環境や場所にも大きく影響するのだと感じた。</p>
7月31日(日)	アンコールワット	<p>歴史が変わる。宗教が変わる。建築様式も変わる。そして今日に残った遺跡。衣食住って人が生きるために大切なことだと改めて感じた。</p>
7月31日(日)	本日の振り返り	<p>人との出会いは偶然だけど、その偶然の出会いに感謝することが大切だと思った。研修中「一期一会」という言葉が好きです、とおっしゃった先生がいたがその通りだと思った。</p>
8月1日(月)	カンボジア地雷対策センター博物館	<p>実際に戦争の恐ろしさを少しでも感じることができた。そしてカンボジアで起こった戦争の一番の特徴である「内戦、同じ国の人々が殺し合う」悲劇を今後どの国でもおこしてはいけないなと思った。</p>
8月1日(月)	海外ボランティア視察 (伊藤 SV, 徳富 JV)	<p>カンボジアの教育の基盤作りをすることの大切さをお話してもらった。良い校舎を建てたり、教材を配布したりするだけでなく、それを活用する人、教師、母親の意識向上が大切だと感じた。</p>
8月1日(月)	母親教室 (就学前教育)	<p>歯ブラシ指導だった。子どもたちの歯は虫歯だらけだった。歯から細菌が入ると血液に入って重い病気にかかることがあると聞いたことがあった。母親たちが自分の子どもの健康についての知識や理解がまだまだ低いのだな、と感じた。今後広がって欲しいと思う。</p>
8月1日(月)	夜間の識字教室	<p>年齢はバラバラだった。はじめは小さい子ばかりだったのでまるで寺子屋のようだったと思った。しかし、途中で高齢の女の人が入ってきた。子どもたちは同じクラスの生徒として今学習している教科書のページ数を教えたり、読んでいる文を教えてあげたりしていた。とても暗い中で小さい妹の面倒をみながら、いきいきと授業に参加している少女が印象深かった。いろいろなことを知って欲しい。教えてあげたいと強く思った。</p>
8月1日(月)	本日の振り返り	<p>カンボジアが好きになってきた。子どもと関わる仕事ってやっぱり素敵だし楽しいなと改めて思った。</p>
8月2日(火)	ワット・ポー小学校	<p>大きな学校、車での通学、きれいな制服。素敵な歓迎の演奏。元気よく遊ぶ様子。普通の小学校に思え</p>

		た。しかし、田中千草さんの話を聞いてやはり現実には、その場の様子だけではわからないものだと痛感した。格差が激しく、仕事が優先になってしまい学校に来なくなっていく子ども達。学校に行かせる意義を見いだせない保護者。そういった課題を徐々に解決しよりよくなるように努力して支援をしている田中千草さんに会えて本当に良かった。自分に田中さんのような活動ができるか、と考えてみたがそう簡単には想像できなかった。
8月2日(火)	コン・ボーン氏の講演	コン・ボーン氏が体験したことは、想像もできない。今平和で豊かな生活をしている私自身あまり聞きたくない話ではあるが、聞かなければいけない事実だと思った。通訳をしてくれたメーアンさんのわかりやすく丁寧な日本語がより講演内容を理解することができた。
8月2日(火)	本日の振り返り	コン・ボーン氏の話の中でとくに「許し合う心」が大切と言っていたのがとても印象に残った。自分にはその心があるのか、考える良い機会となった。
8月3日(水)	現地マーケット視察 (ロシアンマーケット)	マーケット視察後、早めにバスに戻り通訳のメーアンさんとお話をした。カンボジア人のメーアンさんは自分の国の良い点と課題点を自分の考えを織り交ぜながら話してくれた。
8月3日(水)	トゥールスレン虐殺博物館	人はなぜ殺し合うのかわからなかった。自分の考えや意志を通すためか、自分の国をよくするためか。どういった状況であっても人を傷つけるのは絶対に良くないと思った。実際の現場に行ったことで、より肌でその状況を感じることができた。少しでも感じる人が多くいた方が今後こういうことが起こらないのでは、と思った。
8月3日(水)	JICA カンボジア事務所 研修報告会	国際協力はインフラをやっていくだけではなく、その国の人々が参加していき、継続していくことが大切だということがわかった。また、その国や人々に応じた協力をしなければ支援する国や団体の利己主義的なものになってしまいかねないと思った。カンボジアには悲しい歴史、時代があり自分たちの望む教育はなかなかできないが、日本の教育のよりよい面を提示し、選別してカンボジアの人々にあった教育方法を考えていくことが大切だと感じた。
8月3日(水)	本日の振り返り	いよいよ帰国が迫っている。自分自身の現実にもどり、今後の授業内容をどのようにするかを考えなければならなくなってきた。しかし、事前に考えていたことよりも子どもたちに知って欲しいことがいろいろ湧き上がってきた。素材の選別をどのようにし

		ていくが考えたい。
8月4日(木)	カンボジアから日本までの移動中および日本到着	腹痛が激しくなり、気分が本当に悪かった。しかしみなさんが大変親切にしてくださり安心して日本に帰ることができた。感謝の気持ちでいっぱいだった。最後は男子組と女子組に別れて帰ることになったが、ハプニングのおかげかより一層団結力が高まったように感じた。